

第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会を終えて（お礼）

平成29年6月吉日

初夏の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る6月2日から3日にかけて福島市で開催された第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会には、279名の会員・非会員・学生の方にご参加をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。

このたびの学術集会では、三学会（日本産婦人科・新生児血液学会、日本心臓血管外科学会、日本輸血・細胞治療学会）合同シンポジウム（危機的大量出血：フィブリノゲンをどう使う）、ワークショップ（胎児輸血の適応と進歩、産科・小児科の双方から血友病周産期管理を考える）、会長講演（産科学と新生児学に架ける輸血医学）、教育講演（先天性溶血性貧血、ジカウイルス）、ビタミンKフォーラム、ならびに68題の一般演題があり、参加者の皆様には活発な討論と学術的な研鑽に加え、多くの情報交換・収集をしていただけたことと存じます。

特に、産科領域と心臓血管外科領域で発生した後天性低フィブリノゲン血症を伴う大量出血には、フィブリノゲン製剤が止血のため不可欠の製剤であることを薬害患者の立場からも堅く支援いただき、力強く働きかけることを宣言いたしました。

ご参加ご支援いただいた皆様のおかげで大変充実した学術集会を催すことができ、心より感謝申し上げます。

末筆ながら、日本産婦人科・新生児血液学会ならびに会員皆様の益々のご発展をお祈りし、お礼の言葉といたします。

第27回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会 会長 大戸 齊
（福島県立医科大学名誉教授 総括副学長）
副会長 藤森 敬也
（福島県立医科大学 産科婦人科学）
事務局長 郷 勇人
（福島県立医科大学 総合周産期母子医療センター）